

学校はワンダーランド

榎場 雅子

（臨床心理士・精神保健福祉士）

12 月の声を聞くと、何となく余裕のない気分になり、1 年を振り返ってみようようになります。

思えば、春爛漫の 4 月から 4 カ月、「1 年生になったら…」と題して、小学生から高校生までの新 1 年生の晴れがましさと、その裏に秘められている不安を考えてきました。これらに刺激されたお母さん方から、「青少年の問題と、その対応について記してください」との要望がありました。それに応えるべく、8 月号は 8 ページにおよぶ特集号を組みました。ところがそれは、池に投じた一石の波紋のように広がって、3 か月にわたって、いじめ、ひきこもり、自殺問題にまでおよぶ、重いテーマに至ってしまいました。この暗いテーマを背負ったまま 1 年を終わりとくありません。

実は、学校はワンダーランドです。それに気づくには、学校生活の“面白いこと”“自分だけのお気に入り”を思い浮かべることです。単に「学校に行く」と考えているのではなく、ことさらに、うれしかったこと、感じたことを、しっかり心に受け留めておくことです。

いきなり私事で恐縮ですが、私は短歌が大好きで、毎日曜には NHK 短歌を欠かさず見えています。月刊の NHK 短歌も愛読しています。週ごとの 4 人の各選者による入選歌、添削教室は当然のこと、ジュニア短歌 GO!GO! と題する、小学生・中学生を対象とする短歌教室にも関心を寄せています。「学校はワンダーランド」と気付かせてくれたのは、このコーナーに寄せられた作品の数々でした。作品を読み解きながら、その証を解き明かしていきましょう。

〈小学生の部〉

○ 「山」という かんじならった あせかいて おおきくおおきく ノートにかいた 宇田川実生
「山」は 1 年生で初めて習う漢字です。新しい言葉を覚えるときのドキドキ感が伝わってきます。「あせかいて」と本当に山登りするように、力いっぱい練習していき様子が素直に伝わってきます。学ぶことで知ったよろこびは、きっと学校好きになってくれるでしょう。

○ たて笛で 間違うたびに 舌を出す 君と並んだ 居残り練習 小 4 林 健介
とかく嫌われがちな居残り勉強ですが、この作品の作者も含め、ふたりの子どもは共におおらかで、おかしさすらあります。表立って登場していない先生も、きっとおおらかだろうと思いました。そこには知育偏重的なあせりはないからです。ふたりは他意なく仲良しになれたでしょう。

○ あんなにも 頑張ったのに 逆あがり 鉄棒の下 窪ませただけ 小 4 アン
まるで私の昔の状態を代弁してくれたような作品です。私は小学校の頃から運動能力が著しく遅れていて、今日なら発達障害、学習障害を疑われるほどでした。鉄棒の逆あがりも全くできず、掌にまめができてつぶれるほど練習したのですが、結果はこの作品どおりでした。そのとき、先生は「よーし、がんばり賞」と言って、お尻の土を払ってくれました。クラスメートも拍手してくれました。鉄棒が出来なかった切なさより、先生とクラスメートの温かい対応が忘れられません。アンさんも同じ思いをされたのではないのでしょうか。そう願ってやみません。

〈中学生の部〉

○ 置きなれた 駐輪場の スペースに 新入生の 銀の自転車

安 彩花

中学2年生の作。去年まで私の置き場所だったところに、新入生の真新しい自転車が置いてあり、「何となく寂しい」と訴えながら、「上級生になったのだ」という自覚もやんわりと伝わってきて、新学期の空気が生き生きと捉えられています。

○ 数学の 小テストでの 爽快な まるつけの音 消えた五問目

大和谷五輝

これも中学2年生の作品。誰しものが経験したことのある小テスト。先生の説明する正解を聞いて、自分で丸をつけていきます。始めの簡単な問題のうち、みんなが丸をつける音が勢いよく快よく聞こえていたのに、難しい問題に差しかかった途端に、その音がピタリと止まってしまいました。「大和谷さんの耳の冴えに感心しました。この場面を歌にしたのは初めてかもしれませんね」と、選者は評していましたが、そればかりではなく、ある意味でクラスメートが共有する、切なさが、この一首を支えているように思えてなりません。それは彼の「心」でもあるからです。彼が大人になったとき、「学校」と言えば、この日のことを思い出すでしょう。

○ 六限目 あと十分で バasket 体育館まで おこられに行く

的場謙吉

少々疲れ気味の六限目の授業、それもあと10分になって、ぼんやりと部活動のことを考えている。決して褒められたことではありませんが、捨てることのできない一首です。NHK 短歌全国大会で、入賞しています。作者は部活動に頑張っているのでしょう。叱られながらの厳しい練習。辛いこと、納得できないことも多いでしょう。でも頑張っています。部活動も学校生活の一部ですね。

〈高校生の部〉

○ 憧れの 高等学校 「入学を 許可します」との 声響きけり

群馬県 小池美紀

○ 真新しい 制服だけが 知っていた 入学式の 深呼吸五回

東京日野市 花 凜

どちらも「入学式」の題詠に対しての応募作品です。二首を並べて読むと、新入生の喜びと不安が交々に、そこはかとなく伝わってきます。

○ 祝辞聞く 入学式の兵馬俑 後ろを見ればあの子笑いぬ

愛知県 井深晴久

思わず苦笑してしまった一首。兵馬俑は始皇帝の墓近くに埋葬された陶の兵と軍馬です。何体もが無表情で、同じ顔をして立っています。その姿を入学式で祝辞を聞く新入生の上に重ねています。そんななかで、ふと振り返ったとき、「あの子」は笑ってくれたのです。省略と飛躍の効いた非凡な詠みぶりからは、知性と情緒が伝わってきます。十五の春のときめきでしょうか。

○ 僕たちの ここがスタート 校庭に白き石灰 まっすぐに引く

東京日野市 花 凜

入学式の日、新しい制服に託して、緊張のほどを詠じた同じ作者です。明日は運動会でもあるのでしょうか。生徒たちはその準備をしているのでしょうか。上の句で「僕たちのここがスタート」と、大らかに詠じて、下の句で「校庭に白き石灰まっすぐに引く」と具体的に詠み、一首全体が将来を見通した比喻になっています。“僕”ではなく“僕たち”がいいですね。その力量に脱帽です。

○ 最終回 打席に入った君のため トランペットで贈る 「頑張れ」

埼玉県 九条はじめ

勝ちいくさではないようです。しかし雄々しく堂々と、最終回打席に入った選手(友人)のために、精いっぱい願いを込めてトランペットを吹く作者、甲子園での華やかな応援合戦はないけれど、心の内は決して負けていません。試合の結果の程は知るよしもありますが、この日の熱い思いは互いに卒業後も忘れることなく、「高校時代の賜物」として語り合う日がくるでしょう。

この日の詠草についての続詠又は友人からの返歌があるといいな、とあってしまいました。

〈先生の部〉

学校のことを語るのに、児童・生徒の話だけではいささか片手落ちです。先生が重要な役割です。

○ たから箱を開けるがごとき 始業式 一年一組三十五人 岐阜県 堀田桂子

本年3月に本誌で紹介した一首です。ひとり娘の小学校入学を前にした母親の不安相談に当たってこの歌を紹介し、「こんな優しい先生が待っていてくれるといいですね」と伝えてあったところ、奇しくも娘さんは一年一組で、クラスメートは三十五人でした。感動したお母さんは、聞き覚えた堀田さんの歌を披露しました。それを聞いた先生も大喜びで、「私の思いそのままです」と挨拶し、クラスはたちまち一つになりました（読んで頂いた方もおられると思います）。

○ 今日子らは われに寄り来ず 三本の チョークの折れし 授業であれば 秋田 橋本英行

チョークが3本も折れたのは、先生である作者の、不穏な心の反映だったのでしょうか。そんな、微妙な空気を、子どもたちは敏感に読みとっています。先生は、それを素直に受け反省しています。先生と生徒、日頃のこんなやりとりが重なって、やがて深い信頼関係が生まれるのでしょうか。

○ ひまわりが 覗こうとする 通知表 胸に隠して 少女は駆ける 京都市 麻倉 遥

終業式のほほえましい光景。作者は小学4年生を担当する先生。通知表の中身は承知しています。けれどもその反応が心配。他方、生徒の方は中身が心配。そこで親より先に密かに中身が知りたい。「ひまわりが覗こうとする」に工夫があり、明るさがあります。「胸に隠して」への展開が生きて、全体にはずむ調子になっています。密かに覗いているのは、本当は先生ですよ。

○ 満足と 迷い入り混じる 通知表 むかし受ける身 今は渡す身 千葉県 いさむ

通知表には、生徒ひとりひとりの悲喜こもごも、明暗の物語が秘められている。それを思えばこそ、子どもを振り返っての若い先生の苦しい胸のうがちがにじみ出て、共感できます。先生といえ、人が人を評することの難しさは、子どもが大きくなれば更なるものがあります。

○ 答案に にじむ青春 それぞれに 良し悪しなくて 可と不可はあり 中津川勤坐

青春というからには中学生以上の生徒でしょうか。答案の採点をしながら、生徒ひとりひとりの「個性」を見守っています。そこには、生徒それぞれへの期待も込められています。その一方では、「採点に無用な情けは禁物」という大原則を守らなければなりません。教師ならではの苦しみが、読み手の心を強く揺さぶりました。教育とは、教え育てることだと、しみじみ思い返しました。

○ 事故死せし 子の家を 三十年ぶりに訪ひ わが教職のこと 了へむとす 柏崎驍二『四十省日記』

これは投稿歌ではなく、名ある歌人の歌集の中の一詩です。教員生活を終えた作者が、遣り残した最後の仕事として、事故死した教え子の家を訪うという事実を淡々と読みながら、「三十年ぶり」という時間に、作者の教育者としての真摯さが痛く感じられます。かつて担任した生徒の事故死を心に深く鎮めながら、敢えて訪ねようとしなかったことを、教員生活の最後の最後にしてあって、それを以って、「教職のこと了へむとす」と、詠い上げています。作者の誠実さと信念、生徒への深い思いでしょうか。「教職者の誠実さと苦衷」でしょうか。

○ 上着を脱ぐ 大きな字を書く 百の顔に見つつ見られる 四〇一教室 佐々木幸綱

これは知る人ぞ知る佐々木幸綱先生の早稲田大学を退職近く、大学での残り少ない生活への感慨を詠じた第十五歌集、『ムーンウオーク』に収められた中の一詩です。その詠いぶりは肩肘張らず、「上着を脱ぐ」「大きな字を書く」「見つつ見られる」と、身体の動きによって表現されています。大学教授生活にやがて終わりを告げねばならない寂しさを、懸命に振り払おうとしているようで、巧まずして、心のうちが伝わってきます。下の句、「百の顔に見つつ見られる」から教授と学生の間心理的交わりが、伝わってきて胸を打ちます。

小学校1年生から大学教授までの詠草を「学校大好き、ワンダーランド」の証になるように選び出しましたが、どこか物足りません。それは今現在、学校とは特に関与のない多くの人たちの詠んだ作品がなかったからだと気づきました。学校は誰しもの心の奥深く、「忘れ得ぬ場」として内在しています。それが或る日或るときの思いとして、魅力ある内容の一首に表現されています。

- ごつごつと していた桜の 木の根っこ 今ほどの子の 特等席に 竜ヶ崎市 佐倉まり子
- 学校の 隅でたたずむ 女の子 あの子はきっと 昔のわたし 川西市 原田洋子
- 校庭の おおきな桜の 木の下に 埋まるワタシを ミツケテクレル? 世田谷区キャサリン錠前
- 校庭に 卒業記念の 碑を探す あの日の自分を 取り戻すため 宇部市 あや
- どこよりも 友と過ごした 校庭を 裸足で走り 大人になった 品川区 伊庭哲樹
- 校庭を 走ってこいと 宿題を 忘れたときの 古風な罰則 東京 平岡淳子
- 砂ぼこり 砂漠のような 校庭が オアシスだった あれは十代 横浜 若山かん菜
- 絵葉書の ように優しい 空でした 過ぎて気付いた 校庭は青 明石市 西端康孝
- 廃校を 訪ねてみれば 桜木が 在校生のように迎える 東京 平岡淳子
- 廃校の 校庭に立ち ひとり知る 土や柱の 静かな匂い 岡崎市 湯朝俊明

これらの10首は、毎日曜日のNHK短歌教室で名ある選者の選に入って、テレビで放映された詠草ではありません。NHK短歌テキストに、一人一首一行の地味な形ながら、「佳作」として紹介された作品です。テキスト10冊の中から、学校に関する作品を選んで、特に胸打った詠草に、幾枚もの付箋をつけては剥がす作業を繰り返しながら、漸く選び抜きました。それらの詠草を、並び順にも工夫して読み返してみると、或る意味では連歌問答ともなって、胸に迫ってきます。改めて人びとの学校への思いは、日常生活の中でも忘れられることなく生きていて、ある日ふと目覚めて、感動を呼び起こし、自ずから三十一文字として表現されたと、思いを深くしました。

そんな思いを胸に、地元の小学校を訪ねてみました。校庭には子どもたちの歓声が満ち溢れて、校章ともなっている八重桜は、葉を落としていましたが、枝にはひっそりと冬芽がついていました。

そのとき、改めて本稿で選んだ詠草10首すべてが、校庭、桜を詠んでいると思い返しました。それは子どもの頃の思い出が、学校、校庭、桜とひと括りとなって心に仕舞われていたものが、温かく懐かしく蘇り、三十一文字に表現されたのだと思いました。

それ故にこそ、学校はワンダーランドであると確信することができました。そこで返歌を二首。

- 校章の 深きえにしぞ 八重桜 子らの行く手を 永久に守らせ 雅女
- 健やかな 心保てよ 校庭の 桜は汝を 見守りてゐむ 雅女

〈こころの電話相談室〉

心の悩み、心のケア、心の健康に関する電話相談室をご利用下さい。

相談日 毎週木曜日 午前9時～午後9時

相談担当 榎場主任相談員 電話番号 04-7100-8369 個人情報厳正に取り扱います。

〈読者に学ぶ〉◆これらの作品からは筆者の教育に対する思い、学校や教師への信頼と期待が伝わってきます。教えることは学ぶこと。子供たちから教えられることも多いはずです。まさに数学相長也です。◆筆者の眼差しは優しく、冷静で、的確です。とりわけ日本の未来を担う若者たちへの温もりと愛情を感じます。親も兄弟も夫も教育者という生活環境にあって、自らも児童や障害者問題に永年携わってきた専門家としての自負と矜持があるのでしょう。◆本誌の創刊から足掛け4年、相談室も3年になります。毎月10件を超える反響を前に、驚きと緊張と喜びの連続でした。多くのことを学びました。助成事業の終了を機に、来年3月末でひとまず区切りをつけますが、相談室はしばらく続ける予定です (h)。 (独立行政法人福祉医療機構社会福祉振興助成事業)